

第 99 回 外語祭 語劇感染症対策ガイドライン

語劇企画概要

語劇上演団体には以下、感染リスクがある場面ごとに応じた感染症対策を行うよう義務付ける。また、一連の感染症対策が記載されたガイドラインを語劇局が作成し、団体にはそのガイドラインを遵守する旨を記載した誓約書を提出するよう求める。

また、学生課から要請のあった活動時の活動者及びその状態を記入したエクセルの提出を求める。

対面練習が開始される前の段階での対策

○団体が行う感染症対策

- ・各団体 1 名以上コロナ対策を取り締まる役職をおくこと。
- ・コロナ対策について団体内で十分に協議すること。
- ・脚本作成段階で演者間の距離を 2m 以上あけるように工夫すること。

対面練習での対策

○団体が行う感染症対策

- ・練習前、本番前に必ず検温する。37.5 度以上の熱がある場合、または体調不良の場合は練習への参加を辞退すること。
- ・手洗いがい、アルコール消毒を行うこと。
- ・タイムキーパー役を団体内で設け、1 時間に 2 回 5 分程度換気をする事。
- ・できる限りドア、窓を開放しておくこと。
- ・公共物を不必要に触らないこと。
- ・練習はマスクを着けて行うこと。
- ・互いの顔や体に触らないこと。
- ・密集対策のため各自が 2m 以上の距離を保てるような人数と空間を徹底すること。
- ・飲食は控えること。
- ・公共物に触れたあとには必ずウェットティッシュなどで拭くこと。
- ・ゴミは持ち帰ること。
- ・練習後は食事などせずなるべく速やかに帰宅すること。
- ・ホール練習以外では、屋外での練習を推奨する。団体の希望によってはアゴラホール搬入口裏の屋外スペースの貸し出しも検討する。
- ・団体内で感染者、濃厚接触者が確認された場合、直ちに語劇局と大学に報告すること。
- ・語劇の練習期間に一部の団体で集団感染が疑われる事例が発生した場合、全団体の語劇練習を中断する可能性、または語劇本番が中止になる可能性があることを予め了承すること。そしてそのような事態に陥った場合、団体が被る損害を語劇局が負いかねる旨を了承

すること。

- ・感染者が出た場合、大学の授業、サークル活動全般が中断される可能性を念頭に置き、外大生の一員として自覚を持ちながら感染対策を徹底すること。
- ・大学内で感染者が出たことで語劇の準備・発表等に影響が出た場合でも、感染者を糾弾するような言動は慎むこと。アゴラホール使用時の感染症対策
- ・ホール内の2重ドア(一階横2つ、2階後ろ2つ)を全て開放すること。
- ・アゴラ内での飲食は禁止する。水分補給はホールから出て人が密集していないスペースで行うこと。・楽屋、控室、また楽屋横のトイレは使用禁止とする。
- ・照明室、音響室は常に窓、ドアを開放し、各部屋2名までの人数制限を設けること。また音響室、照明室内での私語は極力控えること。
- ・ピンマイク、マイクの使用制限とアルコール消毒を行うこと。
- ・舞台袖での密集を避け、上手脇のドアは常時開放すること。ただし、光が漏れ演出に支障をきたす等場合に応じて対応。
- ・必要最低人数(13人)のみがステージ上に立つこと。語劇局(実行委員)が行う対策
- ・練習立会い時には必ず検温をする。37.5度以上の熱がある場合、または体調不良の場合は練習立ち会いを辞退すること。
- ・団体の練習場所交代時に局員がドアの取っ手、イス・音響照明器具等の定期的な消毒を行う。・練習場所交代時に換気を行う。
- ・学生課から取りまとめ要請があったエクセルの表(活動時、活動者の氏名や健康状態を把握する内容のもの)を取りまとめる。
- ・本番でも団体が使用した楽屋や音響照明器具などを演目転換時に消毒する。

本番

- ・本番では演者はマスクなしではなく、フェイスシールドを着用すること。ただしステージ上で演技をしない者については練習と同じくマスク着用を徹底する。

感染者発生時の対応

- ・語劇参加者内に感染者が確認された場合、直ちにその団体の練習を一時中断する。感染時期や大学内での感染状況によって語劇練習の再開を決定する。

入場制限

- ・ホールの収容人数は約600人であるが感染対策として3分の1の170名に入場人数を規制する。
- ・チケットアプリ LivePocket を用いて、入場者の連絡先や入場者が座った位置(クラスター追跡)、ホール内の入場者数を把握する。

規制退場

- ・終演後は 1 階と 2 階の出口を用いて規制退場を行い、観客が密とならないようにする。また、退場口の外で人が溜まらないよう声掛けを行う。
- ・終演後、演者が出口で挨拶や写真撮影を行うことを禁止する。来場者の感染対策
- ・入退場時に手指のアルコール消毒をしてもらう
- ・ホール内ではマスクの着用を義務とする。
- ・ホール内での飲食は厳禁とする。
- ・演目転換時には換気を行う。ホールにあるすべてのドアを開放する。
- ・演目転換時には消毒を行う。ドアの取っ手及び座席にアルコールを噴霧する。
- ・大学の検温機を使用してアゴラ入場前に検温を実施し、体温が 37.5 度以上あった場合の入場は認めない。

○感染発覚後の流れ

- ・情報提供について 学校側から感染情報がもたらされ、かつ周辺で観劇していた人物に連絡が必要だと判断される場合、事前に取得した電話番号またはメールアドレスを用いて連絡する。または学校側に情報を提供する。
- ・中止判断について 外語祭期間前に語劇参加者から感染者が出た場合、外語祭期間中の公演を中止とする。保健所に中止を促された場合：即刻中止する。後日の日程についても保健所の指示に従う。

保健所に消毒すれば続行許可された場合：消毒作業を行ったのち再開する。公演の途中（昼など）であった場合は時間を繰り下げて行う。退校時間に間に合わなかった場合は後日に振り替えとする。

第 99 回外語祭実行委員会語劇局

2021 年 10 月